



2018年度 新専門医制度  
**総合内科**  
General Internal Medicine

研修プログラム到達目標  
臨床内科学の基礎を横断的に  
質高く学ぶコース

プログラム責任者：國松淳和  
連絡先：[jkunimatsu@hosp.ncgm.go.jp](mailto:jkunimatsu@hosp.ncgm.go.jp)



# 診療科の概要

総合内科 General Internal Medicine



## General

当科を受診する患者のほとんどが、入院であれ外来であれ、当科が関わる時点で主病態に対する診断が定まっていない。つまり病態が明解でない段階で診療を行う機会が豊富にある。一般的な一般内科診療はもとより、不明熱、複合病態、専門科間の境界領域にある疾患、どの専門科でも扱い難いような稀少疾患、等も扱う。また、精神科疾患や認知機能障害をもつ患者に合併した内科的問題への診療も、当科の得意とするところである。

当プログラムは、状況把握が困難で、診断が確定されない段階でも精度の高い診療を行えるようになることを目標としたものである。

# ローテーション期間による到達目標

総合内科 General Internal Medicine



診断困難例を豊富に経験  
専門性が高くない内科疾患は  
治療まで自己完結する



稀少な内科疾患も経験  
発熱の診療に抵抗感がなくなる



入院・一般内科初診外来  
内科全科のコモンディジーズを多く経験



# 研修内容と到達目標

総合内科 General Internal Medicine

内科で診るパニック障害



一般内科の入院、外来診療を行う。症状や検査結果から病態・診断を推定し、併行して治療を考慮あるいは実践し（診断後各科にルーチンで振り分けるのではなく）可能な限り自己完結を目指す。



一方専門領域との境界線はむしろ強く意識し、1人の患者にセンター全体で高度な専門診療が提供ができるよう、積極的に他科と連携する。そのため、患者、他科医師、コメディカルスタッフとの良好なコミュニケーション能力の涵養は、研修そのものであり到達目標でもある。



以上のことを業務の中で身につけるのが研修の中核であり、結果として内科臨床能力を高めることを目標とする。

## ローテーション期間 による到達目標 重点研修タイプ1年型

病棟担当医としては診療のリーダーとなり、指導医バックアップを受けつつ初期研修医を指導しながら退院・外来フォローまで自己完結する。

経験症例は内科専門医取得のための疾患を意識しバランスを考慮する。外来は初診のみならず、継続外来で検査・治療行い患者をフォローし、場合により診療の終結や逆紹介までを行う。

院内外のカンファレンスでの症例提示、学会発表などは必須とし、1つ以上の論文作成を目標とする。

総合内科  
General Internal Medicine

# ローテーション期間による到達目標 重点研修タイプ2年型

1年型研修目標に以下が加わる

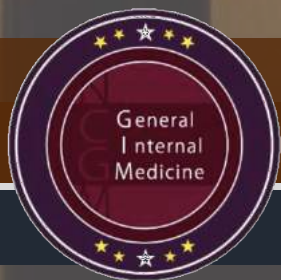
- (1) 初期研修時の経験症例数が旧内科認定医の症例数相当であれば、他科をローテしなくても当科のみの研修でカバーできる。
- (2) 不明熱などの困難症例について、文献などを参考にしながら、複数の他科と連携しつつ診断・治療に導くという経験を複数する。
- (3) 希望すれば海外での学会発表経験。査読のある学術論文の投稿。

総合内科  
General Internal Medicine

「総合診療専門医」が取得できるプログラムではない。

内科各科専門研修を始める前の「底上げ」「地固め」の形成の時期の研修に適している。研修終了後は、内科の各専門科へ専攻プログラムに進むことはもちろん、大病院の総合内科、小・中規模病院や地域中核病院などの内科でも即戦力として活躍できるだろう。

また、精神科や皮膚科といった、内科以外への科目を志望するものにとっても適しているプログラムであると自負している。



## 研修終了後の進路

総合内科 General Internal Medicine